平成２７年度前橋工科大学　地域活性化研究事業　研究成果報告書（概要版）

１．課題区分・管理番号　　地域活性化課題　27-C004

２．研究テーマ名　　市街地における緑環境の評価と維持管理に関する調査研究

３．研究期間　　平成２７年８月１日　～　平成２８年３月３１日

４．研究代表者　　工学部／社会環境工学科　　(職名)教授　(氏名)湯沢　昭

５．課題提案者　　茂木一彦（前橋高等職業訓練校造園研究科　代表）

６．研究成果の概要

（下欄には当該研究成果について，その具体的内容、意義、重要性等を、地域課題研究事業計画書に記載した「研究目的」と「研究計画・方法」に照らし、Ａ４で２～３枚程度で、できるだけ分かりやすく記載願います。文章の他に、研究成果を端的に表す図表を貼り付けても構いません。本学ＨＰにて公表しますので、公表できる内容としてください。）

本調査研究は、市街地における緑環境のあり方について維持管理や緑の効果を評価することにより、市民への緑環境の大切さを理解してもらうことを目的としている。そのため、緑空間の効果や整備方向について市民を対象としたアンケート調査を実施し、分析を行う。併せて得られた結果を、市民に広く周知し、理解してもらうためのシンポジウムを開催した。

アンケート調査は、前橋市全域を対象とし、調査用の配布・回収（直接配布・郵送回収）を行った。その結果以下のようなことが明らかとなった。

①居住地周辺の緑環境に関する評価としては、「四季の変化を感じる」が最も評価が高く、次いで「公園や広場が身近にある」「土と触れ合える場が近くにある」などが高い評価結果となった。一方「10年前と比べて緑の量は」は少なくなっているとの回答が44%となっていることから、身近な緑の量そのものは減少しているとの認識であった。

②日常生活において緑とどのように接しているかの質問に対しては、大きく３つに分かれており、自宅における草場屋や庭木の手入れ、近くの公園の利用、および森林や川辺などの自然との触れ合いとなっている。

③緑豊かな前橋の実現に当たって行政に期待する施策としては、「学校や公共施設の緑を増やす」が最も高く、次いで「屋敷林や神社・お寺の緑の保存」「水辺の緑の保存」などが挙げられた。

④前橋市では公園や街路樹の維持管理に年間で約６億円の費用をかけているが（世帯当たりでは約４千円)、このことについて市民はどのように感じているかについては、約６０％の人が「現在の緑環境を維持するためには、やむを得ない金額であると思う」との回答が最も高い結果となった。このことから、前橋市においては公園や街路樹の管理については肯定的な意見が多い。ただし、必ずしも十分に管理されていない箇所等もあるため、今後は地域の特性に合わせた緑環境の維持管理が必要である。

「水と緑と詩のまち」を掲げている前橋市にとっては、緑環境の更なる改善は必要不可欠なものである。そのためには多額の維持管理費が必要となるが、多くの市民は現状について肯定的な意見が多い結果となった。しかし、公園や街路樹における緑環境の維持管理は必ずしも十分ではないことも事実である。今後は市民の合意のもとに緑環境のあるべき姿について再考する時期に来ているものと思われる。

本調査から得られた成果については、「前橋工科大学地域活性化事業まちなかキャンパス講座」としてシンポジウムを開催した。シンポジウムの論点は緑環境のあり方については勿論であるあるが、緑環境が人の健康にどのような影響を与えるかについて専門家の基調講演を実施した。

従来は工学的観点から緑環境の評価について議論することが多いが、本調査において開催されたシンポジウムでは、医学的観点から緑環境の評価について専門家（国立研究開発法人　森林総合研究所　主任研究員　森田えみ氏）の講演をいただき、パネリスト及び一般市民と共に前橋市における緑環境についての議論を深めた。